海外実習報告第 9 日目　9 月 24 日（月）　今井沙紀，岩佐　翔

本日はまずバンコクからカセサート大学へ移動しました。途中休憩をとりながら午前中にはカセサート大学の寮へ到着しました。そこでカセサート大学のロップ先生と合流しました。先生は我々に同伴して，様々なことを非常に分かりやすく説明してくれたほか，現地の人のタイ語を英語に通訳もしてくれました。

水田と稲作学校

最初に向かったのがカセサート大学内にある稲作学校です。ここではカセサート大学と地域の農民が協力してよりよい稲作を目指して研究や教育をしていて，農民からは経験を，大学からは知識や費用をお互いに出し合うという非常に理にかなった組織です。そしてこの稲作学校の第一の目的は稲作の知識・技術を地域住民に大きく広げるということです。タイの稲作も近代化によって著しく変化していて，現に訪れた水田でも昔は散播していたものを現在は機械で田植えを行っているそうです。そして農民はその技術を学校で習い自分の水田で実行するという形です。また，ここで植えられている品種は中央部の低地での栽培に最適であるスパングリーNo. 1 という品種で，背丈が高いのが特徴でした。稲の種は Rice seed center から買い付けて種籾を生産し，収穫後にそこへ売ることにより，よりよい収入となっているようでした。カセサート大学のあるタイ中央部では気温が常に高いことと，灌漑設備が整っているために一年を通して水が豊富にあることから稲作に最適の土地であるということでした。そのことから二期作を行っていて，農家によっては三期作から四期作を行っているところもあるようです。しかし，土壌や環境のことを考えると二期作が最適であるようでした。生産コストなど経済的にも二期作が最も優れていて，数多く作ることにより収量は上がるもののその分栽培のための支出も増え，結局は四期作した場合も二期作した場合と得られる利益は大して変わらないとのことです。二期作であるが本来なら 7 月に始めていたが現在では灌漑技術の発達により，一年のうちでいつでも始められるようになっているようであった。この学校の第二の目標が稲作のすそ野を広げるということで，若い人々や一般の人にも稲作を知ってもらおうというもので，このことからこの稲作学校には誰でも参加できるという決まりがあり，このような取り組みには日本と共通のものがあるように思いました。現在のタイでは農家は投資家から土地を借りてその土地で稲作を行うということが主流であり，このような習慣を変えていくこともこれからのタイの稲作では重要な課題となってくるとのことでした。

アスパラガスファームは，私達にとって，とても印象深いものでした。アスパラガスといえば，フィリピンからたくさん輸入されているイメージなので，タイからも輸入していることに驚きました。日本では普段スーパーでたくさんの輸入された農産物を買って食べますが，それがどのように作られてどのように輸出されて，そして実際農薬をどれくらい使っていて安全なのかということをほとんど知らないので，今日はそのようなことが知れてよかったです。ここのアスパラガスは，日本に輸入できる条件として，日本政府に許可された農薬以外使っていないポジティブリストにのっとっていて，残留農薬もなしということです。さらに，もし残留農薬が検出されたときにどの農家からでたかというトレーサビリ

ティも確立されているそうです。そこの農家の方々は，自分たちが作るアスパラガスの安全性を主張していて，それに対して強い自信を持っていました。日本までどのようにして輸出されているかも詳しく教えていただきました。早朝に収穫したあと，センターで等級分けされて，そして会社がカット，チェックして，冷蔵保存しながら空輸されて次の朝に日本に着くそうです。会社というのは，ただ日本の一社と契約をしていて輸出しているそうです。

日本向けに等級分けされたアスパラ

日本側から考えると，このアスパラは安全で日本国内で作られたものと変わらないくらい新鮮といいことばかりですが，生産者側は不満を感じているのではないかなと思いました。それは，ただ一社と契約しているということから理不尽な契約が結ばれていたりするのではないかと思ったのと，農薬も日本に指定されているからです。もちろん日本に輸出している以上，私たちをとても歓迎してくれてタイのアスパラをぜひ買ってくれるように勧めてくれました。実際本音を聞くことはできないですが，日本に対して感謝の気持ちを持っているのかそれとも不満を持っているのかというのがとても気になりました。輸入品のアスパラをみたら，この農家のことを思い出すと思います。実際に目でみて，どのように生産されているか知った輸入品は買おうと思いますが，農作物の背景を知らないと国内産を選ぶと思います。ですが，この農家を見学して一番感じたことは，輸入品だから，国内産だからといって，一概に新鮮なのか，安全かそうでないかということは判断するべきではないと感じました。

その後は，ラン農場を見学しました。タイではランの輸出がタイの経済に大きく貢献していますが，そこでの労働者のほとんどはカンボジア人ということで，タイの労働力は近隣の貧しい国から成り立っていることを痛感しました。また，中国，台湾，インドそして日本にも輸出していて，良い価格でないと注文に応じないそうです。それほどランの需要が多いのだなと思いました。最後に大学内にある巨大トカゲのプロジェクトサイトを見学しました。皮や肉用の活用を目指して養殖しているとのことでした。

栽培しているラン